

習志野市といったアでは200万円他のエリアでも180万円だの成約単価は10後が多く、中古価に安い。新築と中かい離幅も平均でさいが、市川市、栗市(美浜区・稲外はほとんどの工い離幅が45〜55%中古が新築の半値格水準となってい

中古の単価かい離として、エリアかい離幅に大きなられる。郊外に行かい離幅は拡大し  
.....  
目社のノウハウが生リアを見極め、建築・住宅事業の両面かローチで事業体制・築していく。

### だに中川裕氏

NTT都市開発

増)で3カ月連続の増加だった。昨年4月(1978戸)が低水準だったことの影響で大幅増となった。契約率は66・3%(前年同月比0・1ポイント増、前月比0・1ポイント増)で、好不調の目安とされる70%を下回った。

### 中規模ビルシリーズ第2弾、赤坂で開発

新日鉄興和不動産はこのほど、東京・赤坂で、中規模ハ

## 高齢者が野菜作り

### 商品化・販路開拓など研究

「中高齢者の農業参加と住まい」について研究する会がこのほど発足した。サ高住(サービスピ付き高齢者向け住宅)などに入居している高齢者が栽培した野菜などを一般消費者に販売するための手法やルート開発、地域における高齢者の就業機会創出、農業機材会社や介護事業者などとの連携による新たな地域ビジネスの開拓などについて研究していく。

第1回目の会合は神奈川県藤沢市の藤沢商工会議所で開かれた。高齢者施設の設計を数多く手がけているKDRライフデザイン研究所社長の笹谷宇志雄氏が研究会の趣旨説明を行ったあと、参加者の自己紹介とディスカッションが行われた。この日は、大学教授、福祉関係、建材、空調設備など様々な分野から21人が参加した。その中で、日本大学生物資

で、前月末比100戸の減少(増)となった。

をイメージしたデザイン。各階の貸室は、約80坪の開放的な無柱空間とする。また、1階のエントランスホールから貸室まで、多層のセキュリティラインを設ける。19年3月下旬に竣工する予定だ。

小さな経済の積み上げが大事と語る河野英一名誉教授



源科学部教授の島田正文氏は「今後は生産緑地地区内での農家レストランが可能になるし、都市公園内でも収益施設などの設置が可能になる」と述べ、地域での野菜づくりの可能性を指摘した。また、同学部准教授の小谷幸司氏は

「地域包括ケアの中にどう“食”を取り入れていくかがポイントになる」と話した。最後に日本大学名誉教授の河野英一氏が総括し、「高齢者が年金以外に要望している所得は月3万〜5万円と小さなものだ。しかし、地域の農産物直売所などを活用し、このような“小さな経済”を積み上げていけば、中程度の経済が各地に生まれる。そのためにはこの研究会で様々な職種や専門家に集まって頂き、実践的な議論をしていきたい」と締めくくった。同研究会は今後、随時開催していくとしている。

発表した。6月22日付。

中川裕氏(なかがわ・ひろ)

人事部長、常務取締役経営企画部長、副社長などを歴任。

### 人事

機構改革

西支店長(住宅事業本部事業戦略部長兼住宅事業本部賃貸事業部長) 佐山義幸(取締役相談役(代表取締役社長))